

トルコギキョウ「ボレロホワイト」を1月までに採花するための定植時期		
[要約] トルコギキョウ「ボレロホワイト」を加温温度 10℃、換気温度 28～30℃で栽培する場合は、自然日長では 8 月 28 日～9 月 2 日、定植から 20 時間の長日処理を行う場合は 9 月 12 日までに定植すれば、1 月までに 90%以上を採花できる。		
茨城県農業総合センター園芸研究所	成果 区分	技術情報

1. 背景・ねらい

トルコギキョウの冬季出荷作型は、定植時期が高温から低温へ移行する時期にあたり、定植時期が出荷時期に大きく影響する。一方、冬季のトルコギキョウの温度管理は、加温温度は15℃、換気温度は25℃程度が一般的であるが、冬季の暖房コストを低減するため暖房温度を従来よりも低く管理する事例がみられる。そこで、冬季の暖房コストを低減するため加温温度を10℃とし、換気温度を28～30℃程度に上げる温度管理で栽培を行う場合に、トルコギキョウを12月から1月に安定的に出荷するための適切な定植時期を明らかにすると同時に、長日処理の影響を検討する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 「ボレロホワイト」は、自然日長では9月2日までに定植を行えば、1月までに90%以上を採花できる（図1）。また、定植から20時間の長日処理を行うと採花日が早まり、9月12日に定植しても90%以上を採花できる（図1）。
- 2) 節数は長日処理を行うと少なくなり、花芽分化が促進される（表1）。
- 3) 切り花長は、9月12日定植を除いて長日処理を行うと長くなり、切り花重および莖径は長日処理により小さくなる傾向である（表1）。
- 4) 有効花蕾数は長日処理による一定の傾向は見られない（表1）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本成果は加温温度10℃、換気温度を28～30℃に設定して行った、単年度の結果である。
- 2) 実際の栽培では、換気温度や加温温度を調節することにより、出荷時期をある程度調節できる。
- 3) 加温温度が慣行よりも低いため、灰色かび病の発生に留意する。

4. 具体的データ

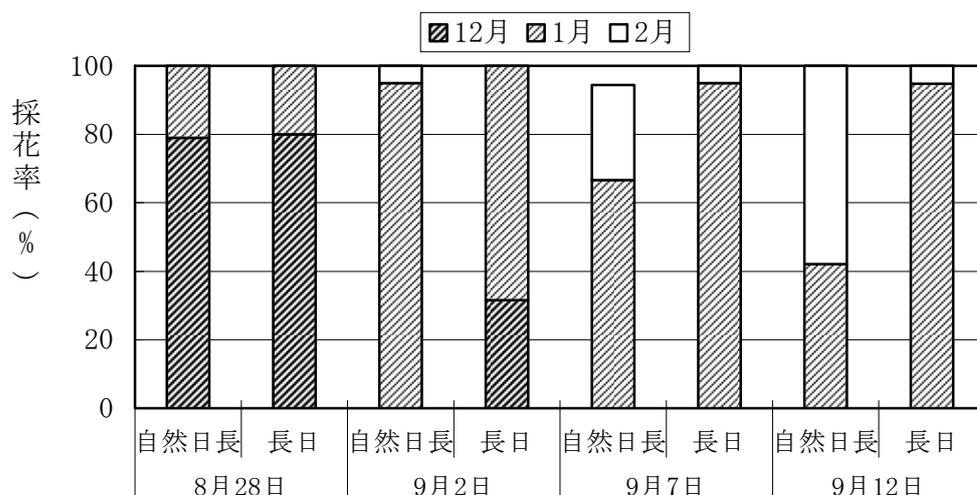


図1 定植時期、長日処理が「ボレロホワイト」の2月までの採花率に及ぼす影響

8月28日定植は、6月12日に288穴セルトレイに播種し、10℃・5週間で種子冷蔵を行った後、夜間冷房育苗(夜間17℃、12時間日長)を行い、日中は50%の遮光を行った。その他の定植日は、それぞれの作業を5日遅らせて行った。

本葉展開葉数が2～2.5対の苗を、所内のパイプハウスに定植した

長日処理は9月3日より開始し、白熱灯を地表1.4m・2m間隔に設置して、日長は20時間日長とした
11月1日以降、夜温10℃で加温し、日中の換気温度は28～30℃とした

主茎頂花を開花後に切除し、その後2輪以上開花した日に採花した

表1 定植時期、長日処理が「ボレロホワイト」の切り花形質に及ぼす影響

定植日	日長	節数(節)	切花長(cm)	切花重(g)	茎径(mm)	有効花蕾数 ¹⁾ (個)
8月28日	自然日長	10.7	60.2	39.2	5.2	5.0
	長日	10.0	63.2	37.4	4.8	4.8
9月2日	自然日長	10.9	56.0	33.8	4.9	3.8
	長日	10.2	61.6	32.6	4.6	4.3
9月7日	自然日長	10.8	55.2	35.4	4.5	3.8
	長日	9.9	58.8	27.8	4.3	4.1
9月12日	自然日長	11.4	61.8	35.4	4.9	4.1
	長日	10.1	56.9	26.1	4.1	3.6

1) 有効花蕾数は開花数と花弁が萼よりも長い蕾の合計値

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

農林水産省実用技術開発事業「今こそチャレンジ！国産花きの周年効率安定生産技術の構築」トルコギキョウの低コスト冬季計画生産技術の確立・平成20～平成22年度・花き研究室